

## 1 月



鬼怒川越水点(若宮戸地区)右岸より

## あの日のあの川 リレー日記 ~ 第24話 ~

あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

## 第24話主人公 石川弘之

(筑波大学大学院 システム情報工学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(川ガール・川系男子)

(出身地を流れる川：千葉県都川水系坂月川)

## 「バイクと見てきた水害」

いつのこと？： 大学～大学院

どこの川？： 鬼怒川

私はバイクが好きだ。暇があれば目的地も決めずに走り出す。千葉にいた頃は花見川河口の美浜大橋がお気に入り、走り回った後に立ち寄ることが多かった。その橋は目の前に東京湾が広がっていて、大型船に乗っているような気分になれるから好きだった。筑波大に進学してから美浜大橋のように立ち寄れる場所を探していた。近くに筑波山はあるのに何か足りない。きっと水辺が好きだったのだろうと思って普段行かない道路を進んでみた。大きな川がある、お城のような物も見えるさらに進むとまた大きな川がある。良い場所を見つけた、きっとここも定番の場所になるのかななんて考えて楽しくなったのを覚えている。それから何度か通った9月、新しいお気に入りの場所が常総市と知ることになった。

2015年9月10日、前日から携帯に鳴り響いていた豪雨警報を見ても雨は止んでいなし特別なことだとは思っていなかった。河川を専門とする研究室として様子を見ておくべきという先輩の呼びかけで集まった数名で大学周辺の川を見て回った。桜川横の防災航空隊基地からヘリコプターが忙しそうに飛び立って行って、た

だの大雨じゃないかもしれないと霽囲気の違いを感じ始めた。ラジオで情報を聞きながら移動していると、越水や決壊不穏な言葉が聞こえて来るようになった。事態の深刻さに気づいたのはこのときだった。どうやら常総市という場所が大変なことになっていると聞いて鬼怒川方面へ向かった。いつも通っていた橋の前で規制線により通行止め、歩いて進むと知らない光景が飛び込んで来た。茶色い水に浸かって道も田んぼが見えない、ヘリコプターがたくさん飛んでいる。いつもと変わらないのは豊田城だけだった。



2015年9月10日長嶺橋付近より

翌日の11日に研究室に常総市の水害調査チームが設立された。初日のこの日は足で広範囲の情報を収集するため乗り物を総動員することになった。私はバイク班として浸水範囲や浸水深さを調べてまわった。知っている場所を走っている感覚はなかった。記録を取っては移動して、バイクも足も泥だらけにして初日の調査が終わった。被災地に入る時は作業着に大学の腕章を着け、無駄な雑談も余計な笑顔も見せないよう淡々と調査することを心がけていたが、聞き込み調査では被災者への配慮が足りず、怒鳴られることもあった。いくら調査とはいえ被災したわけでもない学生が災害現場をうろついていいのだろうかと悩まされた。聞き込み調査で人手が足りないと話してくれた御宅へボランティアに行った。水に浸かった米の酸っぱい匂いが印象的で、これが水害の匂いだと聞かされた。

災害からひと月が過ぎると大学の調査も終了して常総市へは行かなくなった。お気に入りだった場所も遊びに行くのは気が引けてしまって、災害から一度も行っていない。今回、この日記を機会に一年ぶりにバイクで訪れた。常総市へ向かう道、災害発生から増えたダンプはまだ列になって走っていた。元通りになった場所も、そうでないところもあって、一年経ってもまだ復興は続いていた。2016年には熊本の震災などもあり忘れられた復興としての苦労があるとメディアで取り上げられている。あのときから忘れたこともなく、復興がまだ続いていることは知っていたつもりだったが、こうして現地を訪れてみると知っていたはずの復興の現場を見て驚いてしまった。

楽しい思い出ばかりの場所ではなかったけど、卒業後につくばに帰って来たときにまた来たくなるお気に入りの場所だ。被災地の一日も早い復興を願っています。

(次は藤原誠士さんにバトンを託します)